

漢帝国の興亡

-後漢の政治社会-

定員・回数：60人・3回

時間・場所：午後2:00~3:30・研修室

費用：受講料600円

講師：愛知学院大学 文学部 教授 松下憲一

400年ほど続いた統一王朝「漢」。講座では「後漢」を取り上げ、その成立から滅亡までの200年間の政治と社会の動きについて解説します。後漢時代のトピックとしては、儒教の国教化、西域都護の班超の活躍、班固の『漢書』、宦官の活動、黄巾の乱、大秦国王安敦の朝貢、「漢委奴国王」の金印などがあります。これらを取り上げながら、後漢の政治と社会の特徴について考えます。

10/15(土)	後漢の光武帝と明帝 前漢は外戚の王莽によって滅ぼされましたが、漢王朝の一族である劉秀が王莽を滅ぼし、光武帝として後漢を建国します。光武帝の後漢建国と後漢の全盛期を築いた第2代皇帝・明帝の白虎観会議と儒教の国教化について考えます。
10/29(土)	後漢の対外関係 後漢の対外関係について、北方の脅威であった匈奴、現在の中央アジアにあたる西域の支配、ローマ皇帝の使節派遣、弥生時代の中期であった倭との関係を取り上げます。
11/26(土)	後漢の外戚と宦官 後漢は外戚と宦官が政治を動かした時代です。なぜ外戚と宦官が政治を動かしたのかを考えます。宦官による官僚の弾圧事件である党錮の禁の内容とこの事件の影響など説明します。